

東京理科大学ワンダーフォーゲル部 OB 会 50 周年記念イベント

針ノ木峠～烏帽子小屋縦走記録

日 時：2009 年 8 月 8 日～8 月 12 日

場 所：扇沢～針ノ木峠～蓮華岳～船窪岳～不動岳～烏帽子岳～烏帽子小屋～高瀬ダム

メンバー：高橋純一(s50)、高橋澄江(s49)、和田耕一(s35)、木村堅治(s50)

針ノ木峠までの同行メンバー 小沢昭仁(s50)、小沢裕子(日本女子大 WV 部 OG)

山岳リレー班の第一陣は白馬岳から鹿島槍を越え、種池山荘まで走破した。第二陣は種池山荘から双六小屋までカバーする予定であったが、台風 9 号の影響などもあって、結果は烏帽子小屋までとなった。メンバーは 73 才の和田さんを筆頭に、残り 5 名は 50 台後半の男女で構成され、第一陣と同様にテント泊で縦走した。

<8 月 8 日>

扇沢(9:00)→大沢小屋(10:25)→針ノ木峠 C1(15:00)

前夜は蕪崎の小沢さんの事務所に集合し、ささやかな宴会を行ってから仮眠をとり、扇沢に向かう。高橋夫妻は船窪小屋から七倉に下山する予定なので、途中高橋車を七倉の駐車場にデポする。

扇沢の登山口にて、山行届(計画書)を提出し、9 時に出発した。天候は晴れであるが、雲が多く湿度も高く、蒸し暑い。汗もダラダラ垂れる。でも夏山の深緑の中を大勢で登ること自体が久しぶりで、とても嬉しかった。10:25 に大沢小屋に到着。ここまでは皆元気で、ほぼコースタイム通りである。大沢小屋に雪渓の状況を聞いたところ、例年と比べると雪の量は半分くらいということで、非常に少ないようである。

大沢小屋を出発し、30 分ほどで雪渓のフチ付近に出る。雪解け水がとても冷たくて、とても気持ち良い。雪渓はスプーンカットになっているので、途中でアイゼンを装着する。雪渓上は温度も低く、快適である。しかし、雪渓が切れた頃から初日の重い負荷と急坂にあえぎだし、針ノ木小屋には 15 時に到着した。

テントを設営し、皆で負荷した缶ビールと日本酒一升で祝杯を上げる。今夜は和田さんを除いて、テント泊り。和田さんは針ノ木小屋に宿泊したが、大変混んでいて 40cm のスペースしかなかったとのこと。

<8 月 9 日>

C1(6:10)～蓮華岳(7:50)～北葛岳(11:25)～七倉岳(14:15)～船窪小屋テント場 C2(15:00)

天候は曇り、時々雨がぱらつく。ここで小沢夫妻と別れる。小沢パーティには我々とは逆路、針ノ木岳から種池山荘まで縦走し、第一陣の記録と今後の我々の縦走記録とをカバーしてもらう。

6:10 に出発。蓮華岳の登りは高山植物のコマクサが一杯で美しい。高橋夫人が高山植物に詳しく、いろいろ教えてもらった。時々雨のぱらつく生憎の天候であるが、蓮華岳では視界もきいていて、剣岳なども一望できた。

蓮華岳の下りは「蓮華の大下り」と呼ばれ、500mを一気に下り、また一気に北葛岳に突き上げる。この辺の山塊は凸凹が激しく、クサリ場も多い。さらに、北葛岳に到着した 11:25 頃にはガスってしまい、視界もきかなくなる。七倉岳 14:15 を経て、船窪小屋のテント場には 15:00 に到着した。比較的短いコースではあるが、重い負荷での急激なアップダウンの繰り返しで、結構疲れた。

水場はテント場から遠く、不動沢側に崩落している場所があり、とんでもなく危険な場所にある。「夜は水場に行かないように！」という標識があるが、昼間でも気持ちが悪い。和田さんも本日はテントに泊る。OB 会のテントは 4 人でも十分の広さがあった。本日の健闘を祝し、また高橋夫妻とはここでお別れなので、日本酒の残り和田さんが持参した焼酎少しを全部空けてしまう。明日の天気が良くなることを期待しながら、就寝した。

<8月10日>

### 沈殿 C3

4 時頃に目覚めるが、外はドシャ降り。ラジオをつけると、熱帯低気圧が台風 9 号に成長し、甲信越でも大雨との予想である。本日のコースタイムは約 8 時間と長く、悪路なので、沈殿することに決定。高橋夫妻は下山するのみなので、6:30 頃にテント場を発った。

実は、この時点で当初の計画である双六小屋経由新穂高温泉行きをあきらめ、烏帽子小屋経由高瀬ダムに行きに計画を切り換えた。烏帽子小屋から新穂高温泉までのコースタイムは約 17 時間（→三俣山荘 9H→新穂高温泉 8H）であるが、最終日 8/13 の新穂高温泉発松本行きの最終バス 13:40 に間に合うのは、二人には非常にしんどいと考えたためです。

さて、天候であるが、ドシャ降りが激しかったのは 9 時頃までで、午後には雨が上がってしまう。周囲の視界もきき始め、薬師岳、槍ヶ岳や穂高岳までの大パノラマが目前に広がった。本日はさすがにほとんどのパーティが沈殿しており、いつのまにか全員が車座になって、宴会が始まってしまった。今日は酒ナシのつもりであったが、とても我慢ができず、船窪小屋に一走りして、焼酎とビールを買ってきてしまう。全員テント持参で一週間くらい縦走を続けているワンダラーで、話が合い、楽しい一時を過ごせた。また、73 才の和田さんがテント山行をしていることが彼らにも新鮮なインパクトを与えているようだ。

一方、お酒を買いに立ち寄った船窪小屋でも楽しい一時を過ごした。本日の宿泊客は 1 名ということで、小屋の主人夫妻とアルバイトの女性 3 名が小屋前のテーブルを囲んでおり、少し仲間に入れていただき、ごちそうになってしまった。小屋の周りは雷鳥親子 4 羽を見かけたのと、ホシガラスがたくさん飛んでいた。縦走路でみかけた大量のハイマツのマツボックリの喰いかすはホシガラスの仕業らしい。

<8月11日>

C3(5:40)～船窪岳第1ピーク(6:25)～船窪岳第2ピーク(8:05)～不動岳(11:15)～南沢岳(13:55)～烏帽子岳分岐(15:10)～烏帽子岳ピストン～烏帽子岳分岐(15:45)～烏帽子小屋キャンプ場C4(16:15)

天候は晴れであるが、少し雲が多い。また、ブヨや蚊が多く、短パン姿の私はたくさん刺されてしまった。そして、不動沢側の崩落が激しく、コースはかなりの悪路である。ワイヤーなどもいい加減な箇所が多々あった。昨日のドシャ降りに行動を見送ったことはつくづく賢明であったと思う。

船窪岳を越えて、不動岳をひたすら登る。ここまで、単独行の1名としかすれ違っていない。四方も山また山に囲まれ、本当に山奥にいると感じる。

南沢岳を越えると、これまでの山の形相が一変する感じで、特に烏帽子田圃は草原と数々の池塘が美しい。ようやく烏帽子岳の分岐に着いたのは15:10と遅かったが、折角なので未登頂の木村だけピストンさせてもらう。

烏帽子小屋のキャンプ場に16:15に到着。烏帽子小屋は水が有料で1ℓあたり200円と高い。昨日と同様に車座を作って、宴会を開く。スイカを負荷してきた2人パーティがいて、山ではめったに食べられないスイカをごちそうになる。

<8月12日>

C4(6:15)～2208.5三角点(7:05)～濁沢吊橋(9:35)～高瀬ダム(10:30)

本日の天気は快晴、三ツ岳が朝陽に映えて美しい。烏帽子小屋からは赤牛岳も大きく見える。絶好の登山日和で、後ろ髪をひかれる思いで烏帽子小屋を後にする。本日下るブナ立尾根は北アルプス三大急登の一つらしいが、そんなにたいしたことはないという実感だった。約3時間20分でほぼコースタイム通りで、濁沢の吊橋に出た。

しばらく下ると、今度は不動沢の吊橋に出るが、ここは素晴らしいキャンプサイトがあった。また、吊橋もとても大きい。

高瀬ダムに10:30着、ちょうどタクシーが1台待機していた。湯俣温泉から下山して同乗者を待っていた登山客がおり、3名で扇沢に向かう。扇沢からはデポしていたマイカーに乗り換え、大町温泉郷の「薬師の湯」で山中4泊の汗を流す。本当に気持ち良かった。

和田さんも本当にお疲れ様でした。今後もテント山行に付き合ってください。

<総括>

台風9号の影響もあり、残念ながら烏帽子小屋までの縦走となってしまった。下山日の朝は快晴であったが、その後レンズ雲がたくさん出ていたので、翌日はまた荒天だったと予想される。賢明な判断だったと思いたい。

今回の縦走路は悪路で、クサリ場やワイヤーの連続が多かった。テントでの山行では、負荷も重いので、荒天の場合は絶対に行動すべきでない。あるいは、山小屋泊まりで身軽

に行動すべきであろう。

(2009.08.20 記 木村)